

令和6年度 第2回 久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日 時：令和6年11月22日（金） 14時00分～16時00分

場 所：職員会館メルクス3階 大会議室

出席者：15名

福田委員、川口委員、植野委員、永松委員、中村正寛委員、野村委員、宇佐川委員、  
田中委員、猪口委員、田川委員、高良委員、吉永委員、矢次委員、豊福委員、  
橋本委員

欠席者：4名

中村美紗委員、吉岡委員、稲吉委員、中園委員

事務局：農政部 半田部長、井上次長、樋之口流通担当次長

農政部（一般財団法人 久留米市みどりの里づくり推進機構） 竹村専務理事、本木事務局長

農政課 戸上課長、藤原主幹、松延課長補佐、池上課長補佐、松岡

農業の魅力促進課 古賀課長

生産流通課 木下課長

農村森林整備課 津川課長、田代主幹、植田主幹

農業委員会 上野事務局長

田主丸総合支所産業振興課 林田課長

北野総合支所産業振興課 山崎課長

城島総合支所産業振興課 副島課長補佐

三潴総合支所産業振興課 岡野課長

傍聴者：なし

次 第：1 会長挨拶

2 委嘱状交付

3 委員紹介

4 審議事項

（1）第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年度）

5 その他

・市場まつりの案内

・人権尊重週間12/4～10について

内 容：

### 1 会長挨拶

会長	<p>福岡県の総合計画審議会で気になったことを情報共有する。</p> <p>「ワンヘルス」についての議題。「ワンヘルス」は福岡県が全国でも先頭で取り組んでいる知事の肝いりの政策で、農業・畜産業にも関係する。県は、目標を達成すべく順調に進んでいるという評価だが、県民ニーズ調査では「中身がよくわからない・中身が理解できるような説明の機会を設けてほしい」という意見がトップであるのが実態。当事者はわかっているが、県民に浸透していないことがある。</p> <p>我々審議会でも中身をよくわかっているようでわかっていたということがある。久留米市民全体にいき渡るためにも、皆様にはこの審議会の場で活発な議論をお願いしたい。</p>
----	--

### 2 委嘱状交付

事務局	・委嘱状を机上に配付の旨案内
-----	----------------

### 3 委員紹介

新委員	自己紹介（中村正寛委員、宇佐川直委員）
-----	---------------------

### 4 審議事項

#### (1) 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年度）

事務局	【資料1 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年度） 全体目標指標の達成状況と評価の分析、基本施策Iの説明】
A委員	<p>資料5 ページ、収入 2,000 万円の 30%で所得 600 万円というが、インフレもあり以前の数字では評価できない。所得 600 万円のためには収入は 2,500 万円必要。参考だが、青色申告会の平均所得は前年から 18%減少している。目標を所得にするか、収入なら金額を増やすかが必要だと思う。</p> <p>農業都市久留米の認知度として、福岡市など県内では一定の認知度があるので、久留米市内の人にアピールが必要だろう。</p>
事務局	<p>昨今の物価高の影響もあり現状はそうなのだろうが、計画策定時の数字で評価をする。次期計画では現状に沿った目標設定を検討したい。</p> <p>認知度は、コロナ禍で取り組めずに下がっていたが、令和5年度は60%程度に回復している。先日も農業まつりを開催したように、関係機関と連携しながら市内の人たちにもアピールしていきたい。</p>
B委員	農産物の価格高騰の報道について、以前は価格が高いという意見ばかりだったが、最近ではコメンテーターが「日本の農業と食を守るために、農産物の価格

	も農業が持続可能なものにならない。適切な価格形成に消費者も理解を」と言っていた。適切な価格形成について消費者に伝わるよう、行政や地方からも発信するよう検討してほしい。
C委員	6ページの【成果と課題】、【課題】の2段落目、就農後の指導を行っていくとのことだが、就農前の対策は何かあるか。公庫で青年等就農資金という融資をしているが、収入が低い原因として水害など突発的な事情はやむを得ないとして、そもそもの技術不足や経営管理が不十分な事例もあり、補助金頼みになっている人もいる。事前に習得すべきスキルや自己資金を含めた就農前の準備、研修などの充実も必要ではないか。
事務局	就農前は一番肝心で、県やJAと一緒に相談会を開催している。事業活用の前提となる青年等就農計画を認定する際は、1年以上実務経験を積むなどの条件を設けており、最低限の知識はそこで習得されるものと考えているが、目標の達成率を見るとさらなる対策が必要。すでに就農している人も含めて、計画に沿った営農ができるよう就農前から継続的な支援をしていきたい。
C委員	公庫の福岡支店で、福岡県認定農業者協議会と連携して、ベテラン農業者に「自分の就農当時を振り返り、就農前の人にアドバイスを」というアンケートを取っている。とりまとめたら提供するので有効に活用してほしい。
D委員	現場からの声として伝えたい。多様な担い手と言われるが、自分の周りには新規就農したが問題を抱えて離農しようとしている人がいる。たとえば、借りている農地の90歳超の所有者が色々と指示をしてくる、有機栽培に取り組んでいるのに隣の柿農家が「病気で被害が出たのはお前らのせいだ」と怒鳴り込んできた、など。せっかく参入してくれた若者をなぜ地主も周囲も認めてくれないのかと思う。双方が納得できる方法がないだろうか。 また、国は有機栽培の目標を掲げているが、久留米市は有機栽培に対してどのような立場か。
事務局	国はみどりの食料システム戦略で2050年に全耕地面積の1/4を有機栽培とし、化学農薬や化学肥料の使用の低減も掲げている。久留米市もそれを無視することはない。ただし、有機栽培は除草作業など労力もより必要で、機械化しないと手が回らないのが実情と聞く。次期計画に目標をどのように盛り込んでいけるのか考えたい。
E委員	就労支援関連はうまくいっていると聞いている。どのような障害がある人が活躍しているか、問題があるのはどういうところか、把握しているか。
事務局	障害の種別は把握していない。A型、B型事業所等の把握にとどまっている。それぞれの事業所で問題があるかもしれないが、久留米市では具体的な内容まではつかめていない。
事務局	【資料1 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年

	度) 基本施策Ⅱの説明】
A 委員	<p>大豆の収穫時期だが、山川地域ではホオズキや雑草の影響で大豆をすき込んでいる農家がいる。ホオズキにより大豆が変色して売り物にならない。久留米市生産流通課から堆肥の悪臭対応と未成熟堆肥の散布に関する通知があったが、対応を強化するべきである。堆肥に対する成熟度を上げれば耕畜連携もできてくる。そのためには雑草が一番問題である。</p> <p>また、畜産の最大の課題は獣医師の不足。ふくおか県酪の組合長は久留米出身なので、協力を得ながら行政としてできることをしてほしい。</p>
事務局	<p>ホオズキが大豆より伸びている状態は現地で確認した。耕畜連携に取り組んでいる農家に完熟堆肥の使用と使用後の速やかなすき込みの文書を出した。堆肥は、発酵がきちんとできれば雑草の種も死滅する。畜産農家に堆肥製造に関する情報提供（どうすれば発酵が進むか）をするなど、完熟していない堆肥が撒かれないように努めたい。</p>
C 委員	<p>スマート農業はあくまで生産向上の手段であり目的ではない。本日配布したチラシは、食料・農業・農村基本法の改正に合わせてスマート農業を推進するもので、公庫が行っている長期低利の融資の紹介である。農林水産省の認定が必要ではあるが、10月から制度が始まっているので紹介したい。</p>
事務局	【資料1 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年度） 基本施策Ⅲの説明】
F 委員	<p>生産者の立場で言う。大豆収穫が昨日で終わった。自分は今年70歳だが、周囲では一番若い。先日、地域計画策定に向けた座談会に参加して「その農地は10年後に誰が耕作するのか」と言われたが、我々の地域のメインは米麦大豆で、後継者がいない人が多い中で10年後のことを聞かれても難しい。</p> <p>遊休農地については、農地パトロールで回っても狭い農地がほとんど。機械は大型化しており、一方で農家は減っている。広い農地はともかく、住宅地付近の狭い農地は誰も耕作したまらない。住宅地付近の農地では消毒にも気を遣うし、害虫が大量発生したら住宅に入ってしまう苦情が出る。そのような狭い農地でも青地であれば開発はできない。そのあたり、行政としてどう考えているのか。</p>
事務局	<p>地域計画の策定に向けては、地域で座談会を設けて地域の農業の将来を考えていこうというもの。耕作されない農地の問題への対応も目的の1つであり、行政から働きかけて実施中。地域での問題は多様で、一度の座談会で解決するのは難しいと考えており、それでもまずは問題や現状認識を共有し、それから解決の方向性を探っていこうという目的で開催している。行政だけでなく、農業者、関係者と連携して相談していきたい。</p>
G 委員	<p>自然災害により農家の悲鳴が上がっている。高気温、少雨、害虫、有害鳥獣</p>

	被害が多くなり、今年に入ってからは出荷される量が減っている。出荷者の大半が小規模農家である。大規模農家への支援は多いが、後継者が不在で小規模で経営している農家への支援は十分でなく、近い将来一気に出荷者が減る恐れが大きい。道の駅を続けていくには、農家の苦労を考慮して真剣に取り組んでいかなければならない。資材等すべて高騰しており、農産物の価格は上がっているが、出荷量は減っているため売上げは横ばいの状態。生産者と消費者、お互いにとっていい方法を模索していかなければならない。
H委員	18 ページに基盤整備に関する記載があるが、農業生産において一番重要なのは水である。50 年近く経過しているパイプラインやポンプについて、現在はリペアで対応していると思うが、水が来ないと米はできないし、大豆にすると採算は取れない。リペアでなく再施工が必要だと思うので検討してほしい。
事務局	【資料1 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年度） 基本施策Ⅳの説明】
A委員	今年は収穫体験に10数名来てもらった。今年は応募も多かった。農業への関心は高まっているように感じる。予算の都合もあるだろうが、自分は200人でも300人でも受け入れる。
G委員	道の駅は地産地消に取り組んでいるが、今後は若い層にも来てもらいたいと考えている。小学校から大学まで、インターンシップや研修の希望があれば一切断らずに受け入れて、久留米産の農産物や道の駅の運営などに触れてもらい、農業や農産物のイメージ向上に努めている。今後もできる限り受け入れたい。 イベント広場でPR活動もできるので、都合が合えばぜひ使ってもらいたい。
I委員	目標項目「地産地消を意識している市民の割合」は、現状分析をして、ターゲットを絞ることで現時点の評価はCだが目標達成できるという強気な展望だと思うが、どのように考えているのか。他の項目は現時点の評価がBでも目標達成は困難という記載もあり、統一感に欠けているとも言える。
事務局	ターゲットとして若い層が漏れていたと思う。料理教室は平日に開催していたので参加者は高齢者が多かった。若い方の参加を増やすため、今後は土日や夕方に開催するなどしたい。学校給食などで子どもを通じて親世代に働きかけられるようなテコ入れをしたい。意欲的な構想を持って、目標を達成したい。
E委員	どこの会社も現場も人手不足。子どもがいる家庭は家に帰ったら家事などで時間に追われ、平日の料理教室など到底行けない。早く食べられるように作り置きや出来合いのものを食べるので、ますます農業が遠いものになっている。ぜひ意欲的に取り組んでもらいたい。
J委員	今年芋ほりのイベントを行ったが、来場者はすごく喜んでいて。企業イベン

	トや社内研修で農業を体験する手段もあるのではないか。アルバイトもタイミ ー（単発アルバイトを募集するアプリ）を活用して募集しているが、来てくれ た人はとても楽しんでいる。農業に親しむ機会を色々なチャンネルで増やして いくといいのではないか。
事務局	基本施策Vに記載しているが、農作業をして農産物を持ち帰るという仕組み の体験事業「くる農」を実施しているので、受入れ側として参加してもらえれ ばありがたい。
事務局	【資料1 第3期 食料・農業・農村基本計画 総括（令和2年度～令和5年 度） 基本施策Vの説明】
D委員	くる農は10年来受入れ農家が増えていない。なぜ増えないのか考えている。 田主丸地域にメンバーが偏りすぎているのも一因ではないか。北野、三潴、城 島、各地域で組織を作ればよいのではないかと思ひ、各地域への声掛けもした いので、市も協力してほしい。学校を一つ一つ回ってもいいと考えている。受 け入れる側として、農業体験の大切さを感じている。
事務局	久留米耳納グリーンツーリズム協議会でも意見をいただき、協議会の局長と 一緒に募集をかけに行っており、協力はしている。農業者以外への声掛けは、 それぞれの担当部署と協議をしている。くる農については金額、回数など受入 れ農家と相談していきたい。
A委員	自分もくる農の受入れ側であり、スイートコーンの播種と野菜収穫の内容で 実施した。参加者の中にはスイートコーンの収穫にもボランティアで来てくれ た人もいた。NHKやKBCのテレビ番組でお誘いや紹介のコーナーがあり、 出演した時は北九州からも参加があり、メディアの効果は大きい。費用は無料 と魅力的な発信手段なので検討してほしい。 6次化商品は自分も取り組んだが途中で挫折した。支援した件数での評価だ が、これまでの補助金活用者の現状や途中で辞めた人から理由を聞くべきでは ないか。国の事業で取り組んでいるとはいえ、本当に農家のためになっている のか疑問。自分はヤーコン茶サイダーを開発し、飲食店に自ら出向いて自分で 売った。ジャムの容器を買ったはいいものの頓挫した例もある。追跡調査をお 願いしたい。
事務局	6次化商品の支援は平成24年から始めたが、半数ほどは頓挫している。そ の理由は把握している。商品を売るには、開発に込めた思いなど物語性と合わ せたPRが必要。そのフォローをしていきたい。
K委員	理由を把握しているということであれば、次に生かしてほしい。 成果に記載されている「イベント広場の活用」はまだまだだと思ひ。中央卸 売市場や花市場など大きな建物を活用してやってほしい。マルシェで人は集ま るが、人の循環が感じられない。今の時期だと久留米はハゼ祭りがあるので、

	同時開催で道の駅でイベントをして立ち寄ってもらっただけでなく、ハゼ祭り会場に道の駅が出店するなど、会場への人の流れに結びつくような踏み込んだ情報発信が必要ではないか。
会長	その他、全体を通して何か意見等はないか。
L 委員	今回初めて参加した。初めて聞く事業も多く、それらを知ってもらうような PR ができれば若い農家も担い手も増えてくるのではないか。
B 委員	仕事で関東や関西など各地を回る中で、「JA くるめは若い、元気がある」と言ってもらえるなど、活気ある産地、未来ある産地として各市場からは評価されている。これは農業都市のアピールとして必要なことである。JA もそこを見据えた活動をしていきたいと考えており、市と連携して、日本の食を担っていく産地になりたい。
I 委員	冒頭で、価格高騰を消費者がどう受け入れるかという話題があった。農林水産省の協議会で、合理的な価格形成に向けて生産段階、流通段階で標準的なコストを出していこうとしている。それぞれの分野で生産コストを償えるような価格形成をしないといけないという議論をしており、法制化を検討している。もう少し時間はかかると思うが、そのような動きがあることを情報共有しておく。

## 5 その他

事務局	【配付チラシ 「市場まつり」 「人権尊重週間 12/4～10」 の説明】
事務局	今回の議題は現計画の総括で、中には効果が不十分な取組みもあると認識している。令和 7 年度は現計画の最終年度でもあり、令和 8 年度からの基本計画の策定に入るので、審議会の回数を増やしていくことになると考えている。 計画論としてのアプローチ、実体論としてのアプローチ、どちらも大事で、現場の声は非常に大切だと思うので、委員の声を可能な限り吸い上げていきたい。引き続き審議にご協力いただきたい。